

第3回有識者会議を開催しました

1月17日(木曜日)に第3回となる有識者会議を開催しました。

事務局から、既存の公共施設として子ども・子育て支援施設との複合化を基本方針とすること、子ども・子育て支援施設整備の方向性、他町村の図書館複合施設の建設・運営事例、ワークショップで出された意見等を資料として配布・説明したうえで、有識者の皆様に議論していただきました。

議論の内容を抜粋してお伝えします。

(会議資料・会議録は行政ホームページに掲載してありますので、ご参照ください)

【複合化する機能について】



山内委員

既存の公共施設の老朽化による複合化と言つと前向きな要素が感じられない。「子育て支援に力を入れていく」という村の方針・姿勢が大切ではないか。あれもこれもできないので、子育て支援施設を重点とすると雨天時の観光対策等については両立が難しいと思われる。



糸賀会長

ワークショップの意見から村の財政を考慮して受益者負担のような提案も見受けられる。村外の利用者も見込まれることから、観光客も含めて何かしらの形で料金を徴取することも検討するべきと考える。異文化交流や地域の価値観を知る場所になれば人が集うのではないか。ただし、地元の人が利用できるのであれば本末転倒であるため、何かしらの差別化が必要。



多田委員

「節約型」の施設とするのか、運営費・維持費を生み出す「稼げる施設」とするのか、財政的に厳しいからこそしっかり検討するべき。



岡田委員

子育て施設と図書館だけでは利益を生めないし独自性も出ない。持続性を高めるために利益を生み出すことを考えると、独自性は必要。

移住者や観光客が多く関係のあるオーストラリアを中心に、アーティスト・イン・レジデンス*なども含めて大使館等と協議して芸術面でも連携できないか。

*アーティスト・イン・レジデンス
各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながらの作品制作を行わせる事業



山内委員

マンガは活字よりも伝えやすい場面がある上に、家族で足を運んでもらったり、交流を生み出すためのツールになる。マンガに限らず交流のための媒体は多様にあるため、海外の方の嗜好も含めて白馬に合ったものを選択すれば良い。

白馬には豊かな自然、スポーツ・アウトドア、多様な住民、歴史、観光といった特徴がある。今後デジタル化・ネット社会が加速していくが、リアルとバーチャルの融合、頭でっかちにならない実体験が強み・売りになるのではないか。



糸賀会長

図書館は利用者の年齢層が広く、リピーターが多いのも特徴である。外国人との交流を考えた時には、海外の新聞や雑誌、書籍を置くことも考えられる。また、言語の壁を超える手段として、音楽・芸術・スポーツ等がある。

スポーツは既に盛んであるため、アートを関連づければ裾野が広がるのではないかと。図書館の利用者は多種多彩で、子育ては地域に需要があるため、次世代の人材を育てるといった観点では良い組み合わせであると思う。

地域の人たちが白馬のことを学べる場や企画が継続されることで人材が育ち、交流が生まれ、情報も発信できる。コミュニティカレッジの拠点となつてほしい。



第3回有識者会議の様子



【交流・運営について】



糸賀会長

交流を生むことを目的にカフェが併設されることが多い。安易ではあるが一定の効果は期待できる。これからの白馬村に求められる「交流」とはどのようなものか。



松沢委員

地域、世代、職場、趣味などでコミュニティが存在するが、それを超えるような交流が生まれる場所がない。



富山委員

核となる施設があれば、互いを知るきっかけとなり、交流が生まれるのではないか。



奥田委員

高校生の時に地域の仕事を知っていて、地域への愛着がある人ほど、リターン率が高い傾向があると言われる。しろうま学舎の生徒が提言した新図書館の姿にも「交流」はキーワードになっていて、子どもと大人をつなぐ場になってほしい。



大日方委員

交流を重点とするのであれば、アクセス、交通の面からも場所は重要だと思う。



岡田委員

駅には鉄道が停まる機能だけでなく、人や情報が集積する場所という歴史があるため、駅を上手く活用することを考えても良いのではないか。



糸賀会長

小中高の学校図書室との連携も考えていくべき。「子ども司書」として学校の図書委員が村の図書館で司書を体験するなど、外国人も含めた地域の大人との交流の場となる。



多田委員

図書館は気軽に立ち寄る施設だからこそ、健康相談などの医療関連の仕掛けも有効であるし、ボランティアを通じた交流にも取り組むべき。

運営費の圧縮を考えたときに、ボランティアの活用は重要。東京おもちゃ美術館では、ボランティアを「おもちゃ学芸員」として育成に力を入れている。登録者はNPOの正会員でもあり、有料の講習を受けたり、制服を購入したりしながら、積極的な声掛けやサポートで施設のホスピタリティを支えている。

白馬村の複合施設においても、村民が自ら企画運営に参画するのか、運営を村役場にアウトソーシング（外部委託）するのか。

誇りを持って携われる環境や自ら参画して盛り上げる仕組みが作れば、運営費を削減できるだけでなく、大きなエネルギーが生み出せる。



富山委員

建設前の計画・構想の段階から住民に参画してもらうことで、住民主体の運営につながるのではないか。



糸賀会長

「サポーター」という考え方もある。労力を提供する人が居てもいいし、資金を提供する人が居てもいい。全国的には「雑誌サポーター制度」として、企業や個人の寄附で雑誌の定期購読が賄われている。

「友の会」のような組織にして、会員同士の交流を生み出すことも可能である。子どもはお金を出せないが体を動かすことはできるし、それが交流や学びにもつながる。

■有識者の紹介



【図書館】
糸賀 雅晃 会長
慶應大学名誉教授



【交通】
大日方 悦夫 委員
JR 東日本 白馬駅長



【山岳】
松沢 貞一 副会長
(株)白馬館 代表取締役社長



【音楽】
中澤 宗幸 委員
(株)日本ヴァイオリン 創業者



【教育】
奥田 純子 委員
北陸大学経済経営学部助教



【マンガ】
山内 康裕 委員
マンガナイト 代表



【子育て】
多田 千尋 委員
東京おもちゃ美術館 館長



【検討委員会】
富山 正明 委員
白馬村図書館検討委員長



【アート】
岡田 勉 委員
(株)ワコールアートセンター スパイラル シニアキュレーター

2月下旬から3月中旬にかけて「白馬村図書館等複合施設基本構想」のパブリックコメントを実施する予定です。準備ができ次第、行政ホームページに掲載しますので、お気軽にご意見をお寄せください。



お問合せ 白馬村役場 総務課 政策企画係 電話：0261-72-7002

